

シラバス

科目名	こどもの指導法「環境」		担当者名	國分 啓子	
学 科	こども学科こども英語コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	子どもは環境の中で様々な事象に出会うことで知的体験を重ね成長していく。子どもの指導「環境」では、保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育における「環境」とは、子どもを取り巻くもの全てである。保育者も自然現象も保育室等も、全て「環境」である。保育者として、こどもの成長発達を促す最適な「環境」を、提供することができる実践力、そして保育室の環境構成をするため、「環境」に着目した指導計画を立案できるようにしていく。				
授業概要	子どもは様々な環境の中で生活している。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通し人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本授業では、領域「環境」の意義と目的について理解し、環境による保育、こどもが環境と関わりながら好奇心、探求心を育み人間関係を形成しながら成長・発達していく過程を具体的事例を上げながら学習していく。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	ガイダンス・保育者の資質とは 保育者に必要なものあなたを取り巻く環境	19		
	2	環境とは (1) 環境という言葉、環境の定義	20		
	3	環境とは (2) 環境を通して行う保育の意味	21		
	4	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (1)ねらいと内容	22		
	5	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方	23		
	6	身近な「環境」の構成(指導案の構成と作成)	24		
	7	子どもと人的環境との関わり(保育者・友だち・家族・地域の人々)	25		
	8	子どもと物的環境との関わり(遊具・園具・文字・数量)	26		
	9	子どもの自然環境との関わり(身近な自然・生き物との関わり)	27		
	10	子どもと空間とのかかわり(室内あそび、保育形態)	28		
	11	子どもの空間とのかかわり(屋外遊び、保育形態)	29		
	12	行事や地域環境との関わり・園外保育	30		
	13	保育における環境の重要性 (1)好奇心 (2)探求心 (3) 思考力の芽生え	31		
	14	子どもと環境 ・ 標識と図形、ものの性質との出会い	32		
	15	指導上の留意点・環境構成の在り方 ・ 子どもの安全環境 ・ 安全管理 ・ 小学校との連携	33		
	16	子どもの遊びの世界における「3問」の意味と保育の課題	34		
	17	環境保護の大切さ(連鎖・循環・つながり・相互関係)	35		
18	保育者の役割 環境構成 実際の保育室 デザイン	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程を持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

シラバス

科目名	音楽指導実技 I		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども学科こども英語コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	ピアノ演奏技術を修得し、1年間の季節ごとの子どもの歌や生活の歌の弾き歌いを修得する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	ピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう多くの子どもの歌の弾き歌いができる。				
授業概要	各自レベルにあった伴奏付け(左手単音伴奏、コード伴奏)をすることができ、多くの子どもの歌の弾き歌いを身につける。 発表の場を、積極的に設ける。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション 英語音名、伴奏法(単音伴奏、コード譜)説明	19	お辞儀のコード 季節の歌 9月 とんぼのめがね	
	2	季節の歌 4月 チューリップ	20	秋の歌 どんぐりころころ 19の復習	
	3	季節の歌 4月 ちょうちよ 2の復習	21	秋の歌 大きな栗の木の下で 20の復習	
	4	季節の歌 4月 ぶんぶんぶん 春の歌の復習	22	秋の歌 こぎつね(プリント) 21の復習	
	5	4の復習	23	秋の歌 虫の声(プリント) 22の復習	
	6	季節の歌 めだかの学校 5の復習	24	後期小テスト1	
	7	季節の歌 6月 かたつむり 6の復習	25	季節の歌 10月 きのこ	
	8	小テスト1	26	季節の歌 10月 焼き芋グーチャーパー	
	9	かえるのうた	27	季節の歌 11月 まつぼっくり 25の復習	
	10	かえるのうた(ピアノで輪唱)	28	季節の歌 11月 まつぼっくり 27の復習	
	11	むすんでひらいて 10の復習	29	季節の歌 11月 たき火 28の復習	
	12	とけいのうた 11の復習	30	季節の歌 12月 あわてんぼうのサンタクロース 29の復習	
	13	季節の歌 6月 あめふりくまのこ 12の復習	31	季節の歌 12月 ジングルベル	
	14	アイアイ 13の復習	32	季節の歌 1月 お正月	
	15	季節の歌 7月 たなばたさま 14の復習	33	コンコンクジャンの歌	
	16	15の復習	34	季節の歌 2月 まめまき	
	17	季節の歌 おぼけなんてないさ 16の復習	35	季節の歌 ゆき	
	18	小テスト2	36	小テストとまとめ	
成 績 割 合	テスト	40%	学習FB方法	teamsのファイル動画も併用して学ぶ。	
	学習態度・出席率	60%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上、授業態度を重視する。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>80 R<実働実践型学習>60 A<主体的参加型学習>80 G<海外体感型学習>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学びリトミック指導の資格を取得し日本でも、ピアノ指導、リトミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「リズム表現」		担当者名	西川 美岐		
学 科	こども学科こども英語コース		授業方法	演習		
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開講期 必・選	選択	授業時間数	36時間	
授業目的	表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現「領域」から見出し保育指導法を修得していく。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	表現に関する知識や保育技術の習得と実践を通じた人間力の育成を目指す。					
授業概要	領域「表現」の内容を主軸とし、子どもにとっての表現についてその意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践を学ぶ					
授業 計画 表	授業内容			授業内容		
	1	領域「表現」についての基本的な考え方とリズムについての説明	19			
	2	ダルクローズ、オルフ、創造的音楽づくりについて	20			
	3	基礎リズム1 歩く、止まる、回る、走るなどの身体表現	21			
	4	基礎リズム2 リズムパターンの理解とそれに伴う身体表現	22			
	5	基本動作1 基本動作の実践	23			
	6	基本動作2 基本動作の復習と幼児のイメージを豊かにする指導法	24			
	7	童謡やわらべうたについての多様な振り付けの実践1	25			
	8	童謡やわらべ歌についての多様な振り付けの実践2	26			
	9	英語の子どもの歌の振り付けと実践	27			
	10	楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作	28			
	11	オノマトペについての身体表現の実践	29			
	12	ボディーパーカッションについての実践	30			
	13	ボディーパーカッションについての実践	31			
	14	表現する力を育てるための保育者の役割と援助についての模擬保育の実践	32			
	15	クリスマスソングに合わせて身体表現	33			
	16	絵本のストーリーを取り入れた身体表現の実践幼児が持つ表現への意	34			
	17	幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの紹介と創作	35			
18	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り	36				
成績割合	テスト	30パーセント	学習FB方法	成績評価 出席率80%以上を基本とする。グループワークの参加状況も合わせて判断する。合格は60点以上。		
	学習態度・出席率	50パーセント				
	レポート	20パーセント				
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60					
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をしリズム指導の資格を取得している。日本でも、ピアノ指導、リズム指導を行っている。					

シラバス

科目名	音楽表現論		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども学科こども英語コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	感性と表現に関する領域「表現」を学び専門的知識を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	音楽表現指導に関する専門的知識、環境構成を学び、またレポート作成を完成する。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的な指導法の習得と基礎的な音楽知識を身につける。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	音楽表現論をとおして学ぶこと 科目ガイダンス	19		
	2	領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程	20		
	3	音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解	21		
	4	自然が生み出す音とほどういものか？サウンドスケープの採り入れ方、またそのイメージを表現するための音の理解	22		
	5	音楽理論の基礎知識1(五線譜記譜法、音部記号、音名)	23		
	6	音楽理論の基礎知識2(音符と休符、拍子とリズム)	24		
	7	レポート作成の手引き	25		
	8	レポート指導	26		
	9	レポート指導	27		
	10	レポート指導	28		
	11	1年間に行事や歌われる幼児楽曲と童謡、わらべ歌と現代の歌についての分析	29		
	12	日本の童謡、子どもの歌の時代に視点を置いた分析	30		
	13	音楽理論の基礎知識3(音程、調、和音、コードネーム)	31		
	14	音楽理論の基礎知識4(速度記号と標語のまとめ)	32		
	15	リズムと拍子 拍、の実践	33		
	16	保育実践における豊かな表現を引き出すための援助のあり方	34		
	17	科目試験対策	35		
18	科目試験対策	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	教科書、teamsのファイルも補足で共用。五線紙は、五線から書いて音楽理論の基礎知識を身につける。 出席率80%以上、レポート課題、科目試験の合格は60点以上とする	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学び、リミック指導の資格を取得して日本でも、ピアノ指導、リミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	社会福祉論		担当者名	津村 恵子	
学 科	こども学科こども英語コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育士として必要な社会福祉に関する知識を学び、考察力を養う				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における社会福祉の意義・役割を理解し、子どもとその家庭を支援する視点から、制度・方法等について学ぶ				
授業概要	基本的知識を講義形式で学び、具体的事例を用いたワーク及びディスカッションを通し、福祉の今日的課題について考察する				
授 業 計 画 表		授業内容		授業内容	
	1	社会福祉とは ～身近な問題から福祉を考える	19		
	2	社会福祉の理念・基本的人権	20		
	3	日本における貧困問題(子どもの貧困)①	21		
	4	日本における貧困問題(子どもの貧困)②	22		
	5	社会福祉の相談援助(ソーシャルワーク)①	23		
	6	社会福祉の相談援助(ソーシャルワーク)②	24		
	7	レポート作成の手引き①	25		
	8	レポート作成の手引き②	26		
	9	レポート指導	27		
	10	障害者福祉	28		
	11	共生社会とインクルーシブ保育	29		
	12	女性の社会参加について 現状と課題	30		
	13	高齢者福祉	31		
	14	社会福祉における利用者保護に関わる仕組み	32		
	15	子どもの人権	33		
	16	社会福祉の専門職	34		
	17	社会福祉の動向と課題	35		
18	科目試験	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に必要内容をクラスで共有する	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験があり、地域の障がい児者支援活動等に尽力している。				

シラバス

科目名	こども家庭福祉		担当者名	津村 恵子	
学 科	こども学科こども英語コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	後期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育士として必要な「こども家庭福祉」に関する知識を学び、考察力を養う				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における子どもを取り巻く社会状況を理解し、子どもの人権、こども家庭福祉の意義、役割、制度や関係機関の実施体制について学習する。 併せて、こども家庭福祉の現状と課題について考察する。				
授業概要	必要な基本的知識について講義形式で学び、具体的事例を用いた個人ワーク及びディスカッションを通し、こども家庭福祉の様々な今日的課題について、保育士の視点から考察していく。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	現代社会における子どもを取り巻く社会状況①	19		
	2	現代社会における子どもを取り巻く社会状況②	20		
	3	こども家庭福祉の理念①	21		
	4	こども家庭福祉の理念②	22		
	5	子どもの権利 人権擁護と課題	23		
	6	レポート作成の手引き	24		
	7	レポート指導	25		
	8	こども家庭福祉の制度と実施体制	26		
	9	児童福祉に関する機関と専門職	27		
	10	児童福祉施設と専門職	28		
	11	子どもの虐待について	29		
	12	障がいのある子どもへの対応	30		
	13	少年非行などへの対応	31		
	14	社会的養護	32		
	15	貧困家庭、ひとり親家庭など、様々な家庭への対応	33		
	16	母子保健と子どもの健全育成	34		
	17	多様な保育ニーズ 地域の子育て支援	35		
	18	科目試験	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に、必要内容をクラスで共有	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験あり、地域の障がい児者支援に尽力している				

シラバス

科目名	こどもの指導法「環境」		担当者名	國分 啓子	
学 科	こども学科こども音楽コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	子どもは環境の中で様々な事象に出会うことで知的体験を重ね成長していく。子どもの指導「環境」では、保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育における「環境」とは、子どもを取り巻くもの全てである。保育者も自然現象も保育室等も、全て「環境」である。保育者として、こどもの成長発達を促す最適な「環境」を、提供することができる実践力、そして保育室の環境構成をするため、「環境」に着目した指導計画を立案できるようにしていく。				
授業概要	子どもは様々な環境の中で生活している。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通し人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本授業では、領域「環境」の意義と目的について理解し、環境による保育、こどもが環境と関わりながら好奇心、探求心を育み人間関係を形成しながら成長・発達していく過程を具体的事例を上げながら学習していく。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	ガイダンス・保育者の資質とは 保育者に必要なものあなたを取り巻く環境	19		
	2	環境とは (1) 環境という言葉、環境の定義	20		
	3	環境とは (2) 環境を通して行う保育の意味	21		
	4	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (1)ねらいと内容	22		
	5	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方	23		
	6	身近な「環境」の構成(指導案の構成と作成)	24		
	7	子どもと人的環境との関わり(保育者・友だち・家族・地域の人々)	25		
	8	子どもと物的環境との関わり(遊具・園具・文字・数量)	26		
	9	子どもの自然環境との関わり(身近な自然・生き物との関わり)	27		
	10	子どもと空間とのかかわり(室内あそび、保育形態)	28		
	11	子どもの空間とのかかわり(屋外遊び、保育形態)	29		
	12	行事や地域環境との関わり・園外保育	30		
	13	保育における環境の重要性 (1)好奇心 (2)探求心 (3) 思考力の芽生え	31		
	14	子どもと環境 ・ 標識と図形、ものの性質との出会い	32		
	15	指導上の留意点・環境構成の在り方 ・ 子どもの安全環境 ・ 安全管理 ・ 小学校との連携	33		
	16	子どもの遊びの世界における「3問」の意味と保育の課題	34		
	17	環境保護の大切さ(連鎖・循環・つながり・相互関係)	35		
18	保育者の役割 環境構成 実際の保育室 デザイン	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程を持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

シラバス

科目名	音楽指導実技 I		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども学科こども音楽コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	ピアノ演奏技術を修得し、1年間の季節ごとの子どもの歌や生活の歌の弾き歌いを修得する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	ピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう多くの子どもの歌の弾き歌いができる。				
授業概要	各自レベルにあった伴奏付け(左手単音伴奏、コード伴奏)をすることができ、多くの子どもの歌の弾き歌いを身につける。 発表の場を、積極的に設ける。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション 英語音名、伴奏法(単音伴奏、コード譜)説明	19	お辞儀のコード 季節の歌 9月 とんぼのめがね	
	2	季節の歌 4月 チューリップ	20	秋の歌 どんぐりころころ 19の復習	
	3	季節の歌 4月 ちょうちよ 2の復習	21	秋の歌 大きな栗の木の下で 20の復習	
	4	季節の歌 4月 ぶんぶんぶん 春の歌の復習	22	秋の歌 こぎつね(プリント) 21の復習	
	5	季節の歌 5月 こいのぼり 4の復習	23	秋の歌 虫の声(プリント) 22の復習	
	6	季節の歌 めだかの学校 5の復習	24	後期小テスト1	
	7	季節の歌 6月 かたつむり 6の復習	25	季節の歌 10月 きのこ	
	8	小テスト1	26	季節の歌 10月 焼き芋グーチャーパー	
	9	かえるのうた	27	季節の歌 11月 まつぼっくり 25の復習	
	10	かえるのうた(ピアノで輪唱)	28	季節の歌 11月 まつぼっくり 27の復習	
	11	むすんでひらいて 10の復習	29	季節の歌 11月 たき火 28の復習	
	12	とけいのうた 11の復習	30	季節の歌 12月 あわてんぼうのサンタクロース 29の復習	
	13	季節の歌 6月 あめふりくまのこ 12の復習	31	季節の歌 12月 ジングルベル	
	14	アイアイ 13の復習	32	季節の歌 1月 お正月	
	15	季節の歌 7月 たなばたさま 14の復習	33	コンコンクジャンの歌	
	16	季節の歌 キラキラ星 15の復習	34	季節の歌 2月 まめまき	
	17	季節の歌 おぼけなんてないさ 16の復習	35	季節の歌 ゆき	
18	小テスト2	36	小テストとまとめ		
成 績 割 合	テスト	40%	学習FB方法	teamsのファイル動画も併用して学ぶ。	
	学習態度・出席率	60%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上、授業態度を重視する。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学びリトミック指導の資格を取得し日本でも、ピアノ指導、リトミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「リズム表現」		担当者名	西川 美岐		
学 科	こども学科こども音楽コース		授業方法	演習		
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間	
授業目的	表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現「領域」から見出し保育指導法を修得していく。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	表現に関する知識や保育技術の習得と実践を通じた人間力の育成を目指す。					
授業概要	領域「表現」の内容を主軸とし、子どもにとっての表現についてその意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践を学ぶ					
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容		
	1	領域「表現」についての基本的な考え方とリズムについての説明	19			
	2	ダルクローズ、オルフ、創造的音楽づくりについて	20			
	3	基礎リズム1 歩く、止まる、回る、走るなどの身体表現	21			
	4	基礎リズム2 リズムパターンの理解とそれに伴う身体表現	22			
	5	基本動作1 基本動作の実践	23			
	6	基本動作2 基本動作の復習と幼児のイメージを豊かにする指導法	24			
	7	童謡やわらべうたについての多様な振り付けの実践1	25			
	8	童謡やわらべ歌についての多様な振り付けの実践2	26			
	9	英語の子どもの歌の振り付けと実践	27			
	10	楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作	28			
	11	オノマトペについての身体表現の実践	29			
	12	ボディーパーカッションについての実践	30			
	13	ボディーパーカッションについての実践	31			
	14	表現する力を育てるための保育者の役割と援助についての模擬保育の実践	32			
	15	クリスマスソングに合わせて身体表現	33			
	16	絵本のストーリーを取り入れた身体表現の実践幼児が持つ表現への意	34			
	17	幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの紹介と創作	35			
18	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り	36				
成績割合	テスト	30パーセント	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
	学習態度・出席率	50パーセント				
	レポート	20パーセント	成績評価	出席率80%以上を基本とする。グループワークの参加状況も合わせて判断する。合格は60点以上。		
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60					
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をしリズム指導の資格を取得している。日本でも、ピアノ指導、リズム指導を行っている。					

シラバス

科目名	こども家庭福祉		担当者名	津村 恵子	
学 科	こども学科こども音楽コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	後期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育士として必要な「こども家庭福祉」に関する知識を学び、考察力を養う				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における子どもを取り巻く社会状況を理解し、子どもの人権、こども家庭福祉の意義、役割、制度や関係機関の実施体制について学習する。 併せて、こども家庭福祉の現状と課題について考察する。				
授業概要	必要な基本的知識について講義形式で学び、具体的事例を用いた個人ワーク及びディスカッションを通し、こども家庭福祉の様々な今日的課題について、保育士の視点から考察していく。				
授 業 計 画 表		授業内容		授業内容	
	1	現代社会における子どもを取り巻く社会状況①	19		
	2	現代社会における子どもを取り巻く社会状況②	20		
	3	こども家庭福祉の理念①	21		
	4	こども家庭福祉の理念②	22		
	5	子どもの権利 人権擁護と課題	23		
	6	レポート作成の手引き	24		
	7	レポート指導	25		
	8	こども家庭福祉の制度と実施体制	26		
	9	児童福祉に関する機関と専門職	27		
	10	児童福祉施設と専門職	28		
	11	こどもの虐待について	29		
	12	障がいのある子どもへの対応	30		
	13	少年非行などへの対応	31		
	14	社会的養護	32		
	15	貧困家庭、ひとり親家庭など、様々な家庭への対応	33		
	16	母子保健と子どもの健全育成	34		
	17	多様な保育ニーズ 地域の子育て支援	35		
	18	科目試験	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に、必要内容をクラスで共有	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験あり、地域の障がい児者支援に尽力している				

シラバス

科目名	音楽表現論		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども学科こども音楽コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	感性と表現に関する領域「表現」を学び専門的知識を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	音楽表現指導に関する専門的知識、環境構成を学び、またレポート作成を完成する。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的な指導法の習得と基礎的な音楽知識を身につける。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	音楽表現論をとおして学ぶこと 科目ガイダンス	19		
	2	領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程	20		
	3	音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解	21		
	4	自然が生み出す音とどうつづものか？サウンドスケープの採り入れ方、またそのイメージを表現するための音の理解	22		
	5	音楽理論の基礎知識1(五線譜記譜法、音部記号、音名)	23		
	6	音楽理論の基礎知識2(音符と休符、拍子とリズム)	24		
	7	レポート作成の手引き	25		
	8	レポート指導	26		
	9	レポート指導	27		
	10	レポート指導	28		
	11	1年間に行事や歌われる幼児楽曲と童謡、わらべ歌と現代の歌についての分析	29		
	12	日本の童謡、子どもの歌の時代に視点を置いた分析	30		
	13	音楽理論の基礎知識3(音程、調、和音、コードネーム)	31		
	14	音楽理論の基礎知識4(速度記号と標語のまとめ)	32		
	15	リズムと拍子 拍、の実践	33		
	16	保育実践における豊かな表現を引き出すための援助のあり方	34		
	17	科目試験対策	35		
18	科目試験対策	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	教科書、teamsのファイルも補足で共用。五線紙は、五線から書いて音楽理論の基礎知識を身につける。 出席率80%以上、レポート課題、科目試験の合格は60点以上とする	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学び、リミック指導の資格を取得して日本でも、ピアノ指導、リミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	社会福祉論		担当者名	津村 恵子	
学 科	こども学科こども音楽コース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	前期 選択	授業時間数	36時間
授業目的	保育士として必要な社会福祉に関する知識を学び、考察力を養う				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における社会福祉の意義・役割を理解し、子どもとその家庭を支援する視点から、制度・方法等について学ぶ				
授業概要	基本的知識を講義形式で学び、具体的事例を用いたワーク及びディスカッションを通し、福祉の今日的課題について考察する				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	社会福祉とは ～身近な問題から福祉を考える	19		
	2	社会福祉の理念・基本的人権	20		
	3	日本における貧困問題(子どもの貧困)①	21		
	4	日本における貧困問題(子どもの貧困)②	22		
	5	社会福祉の相談援助(ソーシャルワーク)①	23		
	6	社会福祉の相談援助(ソーシャルワーク)②	24		
	7	レポート作成の手引き①	25		
	8	レポート作成の手引き②	26		
	9	レポート指導	27		
	10	障害者福祉	28		
	11	共生社会とインクルーシブ保育	29		
	12	女性の社会参加について 現状と課題	30		
	13	高齢者福祉	31		
	14	社会福祉における利用者保護に関わる仕組み	32		
	15	子どもの人権	33		
	16	社会福祉の専門職	34		
	17	社会福祉の動向と課題	35		
18	科目試験	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に必要内容をクラスで共有する	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験があり、地域の障がい児者支援活動等に尽力している。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「環境」		担当者名	國分 啓子	
学 科	こども学科こどもスポーツコース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	子どもは環境の中で様々な事象に出会うことで知的体験を重ね成長していく。子どもの指導「環境」では、保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育における「環境」とは、子どもを取り巻くもの全てである。保育者も自然現象も保育室等も、全て「環境」である。保育者として、こどもの成長発達を促す最適な「環境」を、提供することができる実践力、そして保育室の環境構成をするため、「環境」に着目した指導計画を立案できるようにしていく。				
授業概要	子どもは様々な環境の中で生活している。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通し人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本授業では、領域「環境」の意義と目的について理解し、環境による保育、こどもが環境と関わりながら好奇心、探求心を育み人間関係を形成しながら成長・発達していく過程を具体的事例を上げながら学習していく。				
授業計画表		授業内容		授業内容	
	1	ガイダンス・保育者の資質とは 保育者に必要なものあなたを取り巻く環境	19		
	2	環境とは (1) 環境という言葉、環境の定義	20		
	3	環境とは (2) 環境を通して行う保育の意味	21		
	4	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (1)ねらいと内容	22		
	5	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方	23		
	6	身近な「環境」の構成(指導案の構成と作成)	24		
	7	子どもと人的環境との関わり(保育者・友だち・家族・地域の人々)	25		
	8	子どもと物的環境との関わり(遊具・園具・文字・数量)	26		
	9	子どもの自然環境との関わり(身近な自然・生き物との関わり)	27		
	10	子どもと空間とのかかわり(室内あそび、保育形態)	28		
	11	子どもの空間とのかかわり(屋外遊び、保育形態)	29		
	12	行事や地域環境との関わり・園外保育	30		
	13	保育における環境の重要性 (1)好奇心 (2)探求心 (3) 思考力の芽生え	31		
	14	子どもと環境 ・ 標識と図形、ものの性質との出会い	32		
	15	指導上の留意点・環境構成の在り方 ・ 子どもの安全環境 ・ 安全管理 ・ 小学校との連携	33		
	16	子どもの遊びの世界における「3問」の意味と保育の課題	34		
	17	環境保護の大切さ(連鎖・循環・つながり・相互関係)	35		
18	保育者の役割 環境構成 実際の保育室 デザイン	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程が持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

シラバス

科目名	音楽指導実技 I		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども学科こどもスポーツコース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	ピアノ演奏技術を修得し、1年間の季節ごとの子どもの歌や生活の歌の弾き歌いを修得する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	ピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう多くの子どもの歌の弾き歌いができる。				
授業概要	各自レベルにあった伴奏付け(左手単音伴奏、コード伴奏)をすることができ、多くの子どもの歌の弾き歌いを身につける。 発表の場を、積極的に設ける。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション 英語音名、伴奏法(単音伴奏、コード譜)説明	19	お辞儀のコード 季節の歌 9月 とんぼのめがね	
	2	季節の歌 4月 チューリップ	20	秋の歌 どんぐりころころ 19の復習	
	3	季節の歌 4月 ちょうちよ 2の復習	21	秋の歌 大きな栗の木の下で 20の復習	
	4	季節の歌 4月 ぶんぶんぶん 春の歌の復習	22	秋の歌 こぎつね(プリント) 21の復習	
	5	季節の歌 5月 こいのぼり 4の復習	23	秋の歌 虫の声(プリント) 22の復習	
	6	季節の歌 めだかの学校 5の復習	24	後期小テスト1	
	7	季節の歌 6月 かたつむり 6の復習	25	季節の歌 10月 きのこ	
	8	小テスト1	26	季節の歌 10月 焼き芋グーチーパー	
	9	かえるのうた	27	季節の歌 11月 まつぼっくり 25の復習	
	10	かえるのうた(ピアノで輪唱)	28	季節の歌 11月 まつぼっくり 27の復習	
	11	むすんでひらいて 10の復習	29	季節の歌 11月 たき火 28の復習	
	12	とけいのうた 11の復習	30	季節の歌 12月 あわてんぼうのサンタクロース 29の復習	
	13	季節の歌 6月 あめふりくまのこ 12の復習	31	季節の歌 12月 ジングルベル	
	14	アイアイ 13の復習	32	季節の歌 1月 お正月	
	15	季節の歌 7月 たなばたさま 14の復習	33	コンコンクシヤンの歌	
	16	季節の歌 キラキラ星 15の復習	34	季節の歌 2月 まめまき	
	17	季節の歌 おばけなんてないさ 16の復習	35	季節の歌 ゆき	
18	小テスト2	36	小テストとまとめ		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	teamsのファイル動画も併用して学ぶ。	
	学習態度・出席率	60%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上、授業態度を重視する。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学びリトミック指導の資格を取得し日本でも、ピアノ指導、リトミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「リズム表現」		担当者名	西川 美岐		
学 科	こども学科こどもスポーツコース		授業方法	演習		
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間	
授業目的	表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現「領域」から見出し保育指導法を修得していく。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	表現に関する知識や保育技術の習得と実践を通じた人間力の育成を目指す。					
授業概要	領域「表現」の内容を主軸とし、子どもにとっての表現についてその意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践を学ぶ					
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容		
	1	領域「表現」についての基本的な考え方とリズムについての説明	19			
	2	ダルクローズ、オルフ、創造的音楽づくりについて	20			
	3	基礎リズム1 歩く、止まる、回る、走るなどの身体表現	21			
	4	基礎リズム2 リズムパターンの理解とそれに伴う身体表現	22			
	5	基本動作1 基本動作の実践	23			
	6	基本動作2 基本動作の復習と幼児のイメージを豊かにする指導法	24			
	7	童謡やわらべうたについての多様な振り付けの実践1	25			
	8	童謡やわらべ歌についての多様な振り付けの実践2	26			
	9	英語の子どもの歌の振り付けと実践	27			
	10	楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作	28			
	11	オノマトペについての身体表現の実践	29			
	12	ボディーパーカッションについての実践	30			
	13	ボディーパーカッションについての実践	31			
	14	表現する力を育てるための保育者の役割と援助についての模擬保育の実践	32			
	15	クリスマスソングに合わせて身体表現	33			
	16	絵本のストーリーを取り入れた身体表現の実践幼児が持つ表現への意	34			
	17	幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの紹介と創作	35			
18	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り	36				
成績割合	テスト	30パーセント	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
	学習態度・出席率	50パーセント				
	レポート	20パーセント	成績評価	出席率80%以上を基本とする。グループワークの参加状況も合わせて判断する。合格は60点以上。		
	合計	100%				
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60					
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をしリズム指導の資格を取得している。日本でも、ピアノ指導、リズム指導を行っている。					

シラバス

科目名	こども家庭福祉		担当者名	津村 恵子	
学 科	こども学科こどもスポーツコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	後期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	保育士として必要な「こども家庭福祉」に関する知識を学び、考察力を養う				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における子どもを取り巻く社会状況を理解し、子どもの人権、こども家庭福祉の意義、役割、制度や関係機関の実施体制について学習する。 併せて、こども家庭福祉の現状と課題について考察する。				
授業概要	必要な基本的知識について講義形式で学び、具体的事例を用いた個人ワーク及びディスカッションを通し、こども家庭福祉の様々な今日的課題について、保育士の視点から考察していく。				
授 業 計 画 表		授業内容			授業内容
	1	現代社会における子どもを取り巻く社会状況①	19		
	2	現代社会における子どもを取り巻く社会状況②	20		
	3	こども家庭福祉の理念①	21		
	4	こども家庭福祉の理念②	22		
	5	子どもの権利 人権擁護と課題	23		
	6	レポート作成の手引き	24		
	7	レポート指導	25		
	8	こども家庭福祉の制度と実施体制	26		
	9	児童福祉に関する機関と専門職	27		
	10	児童福祉施設と専門職	28		
	11	こどもの虐待について	29		
	12	障がいのある子どもへの対応	30		
	13	少年非行などへの対応	31		
	14	社会的養護	32		
	15	貧困家庭、ひとり親家庭など、様々な家庭への対応	33		
	16	母子保健と子どもの健全育成	34		
	17	多様な保育ニーズ 地域の子育て支援	35		
	18	科目試験	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に、必要内容をクラスで共有	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験あり、地域の障がい児者支援に尽力している				

シラバス

科目名	社会福祉論		担当者名	津村 恵子	
学 科	こども学科こどもスポーツコース		授業方法	講義	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開講期 必・選	前期 選択	授業時間数	36時間
授業目的	保育士として必要な社会福祉に関する知識を学び、考察力を養う				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	現代社会における社会福祉の意義・役割を理解し、子どもとその家庭を支援する視点から、制度・方法等について学ぶ				
授業概要	基本的知識を講義形式で学び、具体的事例を用いたワーク及びディスカッションを通し、福祉の今日的課題について考察する				
授業 計画 表	授業内容			授業内容	
	1	社会福祉とは ～身近な問題から福祉を考える	19		
	2	社会福祉の理念・基本的人権	20		
	3	日本における貧困問題(子どもの貧困)①	21		
	4	日本における貧困問題(子どもの貧困)②	22		
	5	社会福祉の相談援助(ソーシャルワーク)①	23		
	6	社会福祉の相談援助(ソーシャルワーク)②	24		
	7	レポート作成の手引き①	25		
	8	レポート作成の手引き②	26		
	9	レポート指導	27		
	10	障害者福祉	28		
	11	共生社会とインクルーシブ保育	29		
	12	女性の社会参加について 現状と課題	30		
	13	高齢者福祉	31		
	14	社会福祉における利用者保護に関わる仕組み	32		
	15	子どもの人権	33		
	16	社会福祉の専門職	34		
	17	社会福祉の動向と課題	35		
18	科目試験	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	授業内に振り返り時間を設け、学習したこと、質問事項などを記入し提出 次授業時に必要内容をクラスで共有する	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>> A<<主体的参加型学習>>50% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	障害児者施設勤務経験があり、地域の障がい児者支援活動等に尽力している。				

シラバス

科目名	音楽表現論		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども学科こどもスポーツコース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	感性と表現に関する領域「表現」を学び専門的知識を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	音楽表現指導に関する専門的知識、環境構成を学び、またレポート作成を完成する。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的な指導法の習得と基礎的な音楽知識を身につける。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	音楽表現論をとおして学ぶこと 科目ガイダンス	19		
	2	領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程	20		
	3	音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解	21		
	4	自然が生み出す音とどうつづものか？サウンドスケープの採り入れ方、またそのイメージを表現するための音の理解	22		
	5	音楽理論の基礎知識1(五線譜記譜法、音部記号、音名)	23		
	6	音楽理論の基礎知識2(音符と休符、拍子とリズム)	24		
	7	レポート作成の手引き	25		
	8	レポート指導	26		
	9	レポート指導	27		
	10	レポート指導	28		
	11	1年間に行事や歌われる幼児楽曲と童謡、わらべ歌と現代の歌についての分析	29		
	12	日本の童謡、子どもの歌の時代に視点を置いた分析	30		
	13	音楽理論の基礎知識3(音程、調、和音、コードネーム)	31		
	14	音楽理論の基礎知識4(速度記号と標語のまとめ)	32		
	15	リズムと拍子 拍、の実践	33		
	16	保育実践における豊かな表現を引き出すための援助のあり方	34		
	17	科目試験対策	35		
18	科目試験対策	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	教科書、teamsのファイルも補足で共用。五線紙は、五線から書いて音楽理論の基礎知識を身につける。 出席率80%以上、レポート課題、科目試験の合格は60点以上とする	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>80 R<実働実践型学習>60 A<主体的参加型学習>80 G<海外体感型学習>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学び、リミック指導の資格を取得して日本でも、ピアノ指導、リミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「環境」		担当者名	國分 啓子	
学 科	こども学科大学コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 2学年	開 講 期 必・選	選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	子どもは環境の中で様々な事象に出会うことで知的体験を重ね成長していく。子どもの指導「環境」では、保育内容「環境」のねらい及び内容について理解を深めるとともに、乳幼児の発達に即して、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	保育における「環境」とは、子どもを取り巻くもの全てである。保育者も自然現象も保育室等も、全て「環境」である。保育者として、こどもの成長発達を促す最適な「環境」を、提供することができる実践力、そして保育室の環境構成をするため、「環境」に着目した指導計画を立案できるようにしていく。				
授業概要	子どもは様々な環境の中で生活している。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通し人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。本授業では、領域「環境」の意義と目的について理解し、環境による保育、こどもが環境と関わりながら好奇心、探求心を育み人間関係を形成しながら成長・発達していく過程を具体的事例を上げながら学習していく。				
授 業 計 画 表		授業内容		授業内容	
	1	ガイダンス・保育者の資質とは 保育者に必要なもの あなたを取り巻く環境	19		
	2	環境とは (1) 環境という言葉、環境の定義	20		
	3	環境とは (2) 環境を通して行う保育の意味	21		
	4	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (1)ねらいと内容	22		
	5	保育の基本と領域「環境」の位置づけ (2)指導上の留意点と指導計画、評価の考え方	23		
	6	身近な「環境」の構成(指導案の構成と作成)	24		
	7	子どもと人的環境との関わり(保育者・友だち・家族・地域の人々)	25		
	8	子どもと物的環境との関わり(遊具・園具・文字・数量)	26		
	9	子どもの自然環境との関わり(身近な自然・生き物との関わり)	27		
	10	子どもと空間とのかかわり(室内あそび、保育形態)	28		
	11	子どもの空間とのかかわり(屋外遊び、保育形態)	29		
	12	行事や地域環境との関わり・園外保育	30		
	13	保育における環境の重要性 (1)好奇心 (2)探求心 (3) 思考力の芽生え	31		
	14	子どもと環境 ・ 標識と図形、ものの性質との出会い	32		
	15	指導上の留意点・環境構成の在り方 ・ 子どもの安全 環境 ・ 安全管理 ・ 小学校との連携	33		
	16	子どもの遊びの世界における「3問」の意味と保育の課題	34		
	17	環境保護の大切さ(連鎖・循環・つながり・相互関係)	35		
18	保育者の役割 環境構成 実際の保育室 デザイン	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90~100点 A80~89 B70~79点 C60~69点 D59点 以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>50% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>10%				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程を持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「人間関係」		担当者名	國分 啓子	
学 科	こども学科大学コース		授業方法	演習	
認定単位	1単位	開講期	選択	授業時間数	36時間
開講学年	1学年	必・選			
授業目的	こどもを取り巻く人間関係の現状を伝え、発達の過程において人と関わる力の育ちの重要性を説明する。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に記される領域「人間関係」と他領域の関連性を説明し、事例に学びながら総合的に保育を捉える力の習得を目指す				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	近年わが国では、急速な情報化の進展によりインターネットや携帯電話等を利用した多様なコミュニケーションが頻繁になされるようになった。反面、かつて家庭や地域社会にあった対面での相互交流をとおした豊かな人間関係を築いていく基盤が失われつつある。「ヒト」は人と人との豊かなかかわりをもてるようになることで「人間」になっていく。こどもたちが人的、物的環境にかかわり、主体的に活動することや互いに支え合って生活をしていくことに喜びや充実感を感じるために、保育者の適切な援助方法や「人間関係」についての基				
授業概要	こどもたちを取り巻く「人間関係」の在り方や「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりとおした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説していく。また、保育者としてこどもとの様な関係性を築いていくのか、こども一養育者、こども一保育者、保育者一養育者、さらには保育者一保育者という様々な関係性について考察して行く。				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	領域「人間関係」のねらいと内容・内容の取扱い	19		
	2	保育の基本と人との関わり ・ 人との関わりを基礎を育てる	20		
	3	保育の基本と人との関わり ・ 基本的な信頼関係と人的環境	21		
	4	乳幼児期における人との関わり発達 ・ 保育者の役割と援助①	22		
	5	乳幼児期における人との関わり発達 ・ 乳児期の発達と人間関係	23		
	6	乳児期における人との関わり発達 ・ 幼児期の発達と人間関係	24		
	7	遊びの中で育つ人との関わり ・ 人との関わりと遊び	25		
	8	遊びの中で育つ人との関わり ・ 遊びの中で人間関係	26		
	9	遊びの中で育つ人との関わり ・ 10の姿に育ってゆく過程	27		
	10	遊びの中で育つ人との関わり ・ 保育者の役割と援助②	28		
	11	人との関わりを育てる保育の実践 ・ 保育者の役割と援助③	29		
	12	人との関わりを育てる保育実践 ・ 人と関われない子どもたち/人と関わる力が育っていくプロセス	30		
	13	人との関わりを育てる保育実践 ・ モデルとしての保育者/援助者としての保育者	31		
	14	人との関わりが難しい子どもの支援 ・ 保育者の役割と援助④	32		
	15	人との関わりが難しい子どもの支援 ・ 人との関わりが難しい子を支援する/さまざまな連携	33		
	16	園、家庭、地域の生活と人との関わり ・ 保育者の役割と援助⑤	34		
	17	園、家庭、地域の生活と人との関わり ・ 子どもの生活と人との関わり	35		
	18	地域の人々や小学校との交流を導く保育計画 ・ 情報機器を活用した保育計画を含む指導案、模擬保育など	36		
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価	出席率80%以上 S90～100点 A80～89 B70～79点 C60～69点 D59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>60% R<<実働実践型学習>>20% A<<主体的参加型学習>>20% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	講義形式を基本とする。保育者になる立場として、子育て家庭への支援方法や、多くの過程が持つ悩みを、ともに共有し、支援する精神を理解できることを望む。担当教員は都内の保育園にて園長を務め、現在も保育園の相談役として活躍している。保育園と保育者そして保護者の現状を熟知している講師が担当している。				

シラバス

科目名	こどもの指導法「リズム表現」		担当者名	西川 美岐		
学 科	こども学科大学コース		授業方法	演習		
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開講期 必・選	選択	授業時間数	36時間	
授業目的	表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現「領域」から見出し保育指導法を修得していく。					
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	表現に関する知識や保育技術の習得と実践を通じた人間力の育成を目指す。					
授業概要	領域「表現」の内容を主軸とし、子どもにとっての表現についてその意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践を学ぶ					
授業 計画 表	授業内容			授業内容		
	1	領域「表現」についての基本的な考え方とリズムについての説明	19			
	2	ダルクロワーズ、オルフ、創造的音楽づくりについて	20			
	3	基礎リズム1歩く、止まる、回る、走るなどの身体表現	21			
	4	基礎リズム2 リズムパターンの理解とそれに伴う身体表現	22			
	5	基本動作1 基本動作の実践	23			
	6	基本動作2 基本動作の復習と幼児のイメージを豊かにする指導法	24			
	7	童謡やわらべうたについての多様な振り付けの実践1	25			
	8	童謡やわらべ歌についての多様な振り付けの実践2	26			
	9	英語の子どもの歌の振り付けと実践	27			
	10	楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作	28			
	11	オノマトペについての身体表現の実践	29			
	12	ボディーパーカッションについての実践	30			
	13	ボディーパーカッションについての実践	31			
	14	表現する力を育てるための保育者の役割と援助についての模擬保育の実践	32			
	15	クリスマスソングに合わせて身体表現	33			
	16	絵本のストーリーを取り入れた身体表現の実践幼児が持つ表現への意	34			
	17	幼児が持つ表現への意欲と喜びを育むリズム遊びの紹介と創作	35			
18	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り	36				
成績割合	テスト	30%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付		
	学習態度・出席率	50%				
	レポート	20%	成績評価			
	合計	100%				出席率80%以上を基本とする。グループワークの参加状況も合わせて判断する。合格は60点以上。
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60					
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をしリズム指導の資格を取得している。日本でも、ピアノ指導、リズム指導を行っている。					

シラバス

科目名	表現 I		担当者名	平野 真由美	
学 科	こども学科大学コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開講期 必・選	後期 必選	授業時間数	36時間
授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・手話の基本を学ぶ ・聴覚障がいについて理解するとともに、私たちの生活上の社会的バリア/ユニバーサルデザイン/SDGs等々についても理解を深める 				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な手話による自己紹介や日常会話の習得 ・聴覚障がいの基礎知識を学び理解する ・社会的バリアに目を向け、認識を広げる 				
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な自己紹介や日常会話の実技習得 ・聴覚障がいの基礎知識・コミュニケーション手段などの座学 ・聴覚障がいゲスト講師との交流 				
授業計画表	授業内容			授業内容	
	1	●ガイダンス・導入 ●挨拶の手話表現・授業で必須の手話単語	19		
	2	●伝える工夫・コミュニケーション手段には ●手話の基本(指文字/数詞)	20		
	3	●手話の基本(指文字/疑問詞) ●手話の基本(指文字/疑問詞を使った例文)	21		
	4	●自己紹介(名前/学校名/学科名) ●自己紹介(住所/代表的な都道府県名)	22		
	5	●自己紹介(数詞の復習/年齢表現) ●自己紹介(家族の表現)	23		
	6	●自己紹介(趣味の表現) ●自己紹介(仕事の表現)	24		
	7	●自己紹介(総まとめ) ●読み取り練習(数詞/指文字)	25		
	8	●疑問詞を使った応用例文(何/誰/どう) ●疑問詞を使った応用例文(いつ/どちら/なぜ)	26		
	9	●時制(一日の生活) ●時制(一週間の生活)	27		
	10	●時制(一年の生活/四季の単語) ●動画:読み取り練習(色々なろう者の自己紹介part1)	28		
	11	●動画:聞こえない学生の一日の生活(ろう文化の理解) ●社会的バリアの理解(バリアフリー/ユニバーサルデザイン/SDGs)	29		
	12	●動画:読み取り練習(色々なろう者の自己紹介part2) ●X'mas Songを手話で楽しもう	30		
	13	●これまでの総復習 ●時節の手話(お正月の単語) / 簡単な接遇手話	31		
	14	●ろうゲスト授業事前学習(ろう文化等) ●ろうゲスト講師との交流	32		
	15	●聴覚障がいの特性理解/先週の感想共有 ●期末試験対策 読み取り(指文字)	33		
	16	●期末試験対策 表出例文 ●期末試験対策 読み取り(単語/語句/例文)	34		
	17	●期末試験 表出問題 ●期末試験 読み取り問題/知識問題筆記	35		
18	●試験返却/振り返り ●後期授業の総復習と総まとめ	36			
成績割合	テスト	50%	学習FB方法	前期・後期 成績表送付	
	学習態度・出席率	40%			
	レポート	10%	成績評価	出席率80%以上 S:90~100点 A:80~89点 B:70~79点 C:60~69点 D:59点以下は不合格	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>20% R<<実働実践型学習>>40% A<<主体的参加型学習>>40% G<<海外体感型学習>>				
講師プロフィール	手話通訳士として講演会・会議・その他日常生活様々な場面での手話通訳活動や手話指導経験を積みながら、日々研鑽している。 使用教材「豊かなコミュニケーション」(NPO法人 東京都中途失聴・難聴者協会 発行)				

シラバス

科目名	音楽表現論		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども学科大学コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	1単位 1学年	開 講 期 必・選	前期 選択	授 業 時 間 数	36時間
授業目的	感性と表現に関する領域「表現」を学び専門的知識を身につける。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	音楽表現指導に関する専門的知識、環境構成を学び、またレポート作成を完成する。				
授業概要	領域「表現」における音楽表現に視点を置き、子どもの豊かな感性や表現する力、想像力を育むための具体的な指導法の習得と基礎的な音楽知識を身につける。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	音楽表現論をとおして学ぶこと 科目ガイダンス	19		
	2	領域「表現」の理解と音楽表現における乳幼児の発達過程	20		
	3	音楽表現に必要な音楽要素の理解と乳幼児の発達に伴う声域についての理解	21		
	4	自然が生み出す音とどうつづものか？サウンドスケープの採り入れ方、またそのイメージを表現するための音の理解	22		
	5	音楽理論の基礎知識1(五線譜記譜法、音部記号、音名)	23		
	6	音楽理論の基礎知識2(音符と休符、拍子とリズム)	24		
	7	レポート作成の手引き	25		
	8	レポート指導	26		
	9	レポート指導	27		
	10	レポート指導	28		
	11	1年間に行事や歌われる幼児楽曲と童謡、わらべ歌と現代の歌についての分析	29		
	12	日本の童謡、子どもの歌の時代に視点を置いた分析	30		
	13	音楽理論の基礎知識3(音程、調、和音、コードネーム)	31		
	14	音楽理論の基礎知識4(速度記号と標語のまとめ)	32		
	15	リズムと拍子 拍、の実践	33		
	16	保育実践における豊かな表現を引き出すための援助のあり方	34		
	17	科目試験対策	35		
18	科目試験対策	36			
成績割合	テスト	40%	学習FB方法	教科書、teamsのファイルも補足で共用。五線紙は、五線から書いて音楽理論の基礎知識を身につける。 出席率80%以上、レポート課題、科目試験の合格は60点以上とする	
	学習態度・出席率	30%			
	レポート	30%	成績評価		
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<課題解決型学習>80 R<実働実践型学習>60 A<主体的参加型学習>80 G<海外体感型学習>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学び、リミック指導の資格を取得して日本でも、ピアノ指導、リミック指導を行っている。				

シラバス

科目名	音楽指導実技 I		担当者名	西川 美岐	
学 科	こども学科大学コース		授業方法	演習	
認定単位 開講学年	2単位 1学年	開 講 期 必・選	必選	授 業 時 間 数	72時間
授業目的	ピアノ演奏技術を修得し、1年間の季節ごとの子どもの歌や生活の歌の弾き歌いを修得する。				
授業目標 (ラーニング アウトカムズ)	ピアノ演奏技術を修得し、教育実習や保育現場での実践に対応できるよう多くの子どもの歌の弾き歌いができる。				
授業概要	各自レベルにあった伴奏付け(左手単音伴奏、コード伴奏)をすることができ、多くの子どもの歌の弾き歌いを身につける。 発表の場を、積極的に設ける。				
授 業 計 画 表	授業内容			授業内容	
	1	オリエンテーション 英語音名、伴奏法(単音伴奏、コード譜)説明	19	お辞儀のコード 季節の歌 9月 とんぼのめがね	
	2	季節の歌 4月 チューリップ	20	秋の歌 どんぐりころころ 19の復習	
	3	季節の歌 4月 ちょうちよ 2の復習	21	秋の歌 大きな栗の木の下で 20の復習	
	4	季節の歌 4月 ぶんぶんぶん 春の歌の復習	22	秋の歌 こぎつね(プリント) 21の復習	
	5	季節の歌 5月 こいのぼり 4の復習	23	秋の歌 虫の声(プリント) 22の復習	
	6	季節の歌 めだかの学校 5の復習	24	後期小テスト1	
	7	季節の歌 6月 かたつむり 6の復習	25	季節の歌 10月 きのこ	
	8	小テスト1	26	季節の歌 10月 焼き芋グーチャーパー	
	9	かえるのうた	27	季節の歌 11月 まつぼっくり 25の復習	
	10	かえるのうた(ピアノで輪唱)	28	季節の歌 11月 まつぼっくり 27の復習	
	11	むすんでひらいて 10の復習	29	季節の歌 11月 たき火 28の復習	
	12	とけいのうた 11の復習	30	季節の歌 12月 あわてんぼうのサンタクロース 29の復習	
	13	季節の歌 6月 あめふりくまのこ 12の復習	31	季節の歌 12月 ジングルベル	
	14	アイアイ 13の復習	32	季節の歌 1月 お正月	
	15	季節の歌 7月 たなばたさま 14の復習	33	コンコンクジャンの歌	
	16	季節の歌 キラキラ星 15の復習	34	季節の歌 2月 まめまき	
	17	季節の歌 おぼけなんてないさ 16の復習	35	季節の歌 ゆき	
18	小テスト2	36	小テストとまとめ		
成 績 割 合	テスト	40%	学習FB方法	teamsのファイル動画も併用して学ぶ。	
	学習態度・出席率	60%			
	レポート	0%	成績評価	出席率80%以上、授業態度を重視する。	
	合計	100%			
P/R/A/G割合	P<<課題解決型学習>>80 R<<実働実践型学習>>60 A<<主体的参加型学習>>80 G<<海外体感型学習>>60				
講師プロフィール	音大卒業後、海外の音大に留学をして、音楽教育を学びリトミック指導の資格を取得し日本でも、ピアノ指導、リトミック指導を行っている。				